

## 認知症患者の血液透析中の抜針対策 - 漏血センサー導入の評価 -

長崎腎病院

○森山麗 熊博和 中村寿恵 丸山祐子 原田孝司 船越 哲

### 【はじめに】

当院では認知症患者の血液透析中の自己抜針による大量出血となった事故を経験した。この事故を機に抜針対策の強化を目的として「漏血センサー」を導入したのでその経緯と結果を報告する。

### 【経緯】

事例患者は70代男性、軽度の認知症を認めるが、日頃より危険行為など見られなかったが、コンソールの警報により自己抜針による失血を発見。総合的な失血事故分析より、自己抜針は軽度認知症や身体抑制を実施していた患者にも発生しており予測困難であると判断した。対策として「抜針の早期発見」に目を向け「漏血センサー」を導入した。

### 【結果】

使用対象は全ての認知症患者とした。開始当初は「漏血センサーの取り付けに手間がかかる」の意見が聞かれたが、導入後、抜針事故件数は2015年度17件であったのが2016年度は8件に減少した。

### 【考察】

失血早期発見のツールとして漏血センサーを導入したところ自己抜針事例が減少する傾向となり、「漏血センサー」の導入は、重大事故につながる危険性を減少させる可能性があると考えられる。一方で漏血センサーを使用していない患者での抜針事故が発生しており、使用患者選択におけるスタッフの感性に着目して検討を続けたい。